

「坂戸市緑の基本計画(中間年次改訂版)」

原案に対する市民コメントまとめ

平成28年3月

坂 戸 市



坂戸市緑の基本計画(中間年次改訂版)市民コメント

No	コメント	項目	ご意見・ご提案の要旨	ご意見・ご提案に対する考え方
1	70代 男性	水辺の緑の拠点	<p>計画には水辺の緑の拠点が記載されているが、小沼が記載されていない。小沼の河畔林にはオオタカ、サシバなど猛禽類や多くの種類の鳥が集まり、また、川には白鳥や鴨が越冬のため飛来するなど坂戸市の貴重な自然であると思います。なぜ小沼が記載されていないのでしょうか。小沼の農地が開発の対象になっているとの話がありますが、河畔林をはじめすべての自然を残すことなく開発する意図から小沼が外されているのでしょうか？ 開発が避けられないとしても、小沼の河畔林、土手周辺の環境を開発も考慮してできる範囲で残して、坂戸の農業などの産業や観光とうまく連携させたり、さつきグリーンセンターから飯盛川水門までを市民の憩いの散歩道にしてみてもどうでしょうか。散歩道、遊歩道の計画はあるようですが、水辺と緑の拠点、環境学習拠点、自然レクリエーション拠点はありません。小沼も水辺と緑の拠点として、是非、計画に加えていただきたいと思います。</p>	<p>本計画では、「水辺と緑の拠点」については水辺の整備が可能な箇所を選定しましたので、河川敷内の河畔林は対象とはしませんでした。しかしながら、「緑の将来像」では城山周辺の樹林地や高麗川などの河川エリアを軸として、水と緑のネットワークの形成をめざすこととし、河川や水辺の緑地軸では保全と活用を図ることとしており、小沼の河畔林もこの中に含まれています。また、圏央道坂戸IC周辺については、協議会が設立され、開発が検討されている段階ですが、市としても、周辺の自然環境との共存に配慮がなされるよう求めてまいります。</p>

No	コメント	項目	ご意見・ご提案の要旨	ご意見・ご提案に対する考え方
2	50代 女性	P19 緑地軸	緑地軸の中に高麗川だけでなく、下流の越辺川、支流の飯盛川などを含めて考えていることがとてもいいと思う。	河川は連続性のある空間であり、風の通り道、エコロジカルネットワークの形成や市民の憩いの場として活用を進めたいと考えています。
3		P20 水辺と緑の拠点	水辺と緑の拠点に小沼の河畔林(飯盛川水門～道場橋)周辺も入れてください。 理由 小沼の河畔林、草地、農耕地を含めたエリアは、在来種だけで126種もの野鳥が観察されています。そして、12種以上の猛禽が観察され、エノキ、クヌギの充実した河畔林にオオタカ、サシバなど3種の猛禽が繁殖しています。県内でも貴重な場所となっています。昨年はハクチョウが100羽以上越冬し、春日部市などの小学生が訪れました。カブトムシやメダカも繁殖しており、子どもの自然教育の場所に適しています。圏央道の建設の際には希少植物の移植が行われました。野鳥の会の仲間と15年ほどかけて高麗川、越辺川沿いの河畔林を調査してきました。浅羽ビオトープも素晴らしいが、小沼が最も動植物が豊かだと思われれます。小沼が県内の他の場所と比較して素晴らしい環境であると、埼玉県レッドデータブック野鳥部門担当の先生も認めておられました。丘陵地にある城山とはまた違う豊かさがあります。	本計画では、「水辺と緑の拠点」については水辺の整備が可能な箇所を選定しましたので、河川敷内の河畔林は対象とはしませんでした。しかしながら、「緑の将来像」では城山周辺の樹林地や高麗川などの河川エリアを軸として、水と緑のネットワークの形成をめざすこととし、河川や水辺の緑地軸では保全と活用を図ることとしており、小沼の河畔林もこの中に含まれています。
4		P20 坂戸ふるさと遊歩道 P29	高麗川ふるさと遊歩道がさつきクリーンセンターまで計画されているのは、とてもいいことだと思います。早い着工をお願いします。	市内を西から東まで水辺と緑に親しむ場がつながるよう実現に向け取り組んでまいります。

No	コメント	項目	ご意見・ご提案の要旨	ご意見・ご提案に対する考え方
5		その他	<p>圏央道坂戸IC周辺の小沼の農地に開発計画があるようです。開発にすべて反対するわけではないが、以下のことを考慮してほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 農業を続けたい地権者には、農業を続けられる環境を保障して開発を行ってほしい。 2 開発する際にできる限り緑を残す方向で考えてほしい。 3 近くにはイチゴ農園がある。ハクチョウが飛来する田んぼのお米は「ハクチョウ米」などとしてブランド化できるのでは？ 開発の際には、産直センターや都内の人も参加できる市民農園など坂戸の産業や緑を生かした開発を考えてほしい。 4 県内のICには、開発で農地に建設資材置き場、倉庫が乱立し、雇用も生まれず、住環境が悪くなったところもある。そのような開発にならないようお願いしたい。 	<p>圏央道坂戸IC周辺については、協議会が設立され、開発が検討されている段階ですが、市としても、周辺の自然環境との共存に配慮がなされるよう求めてまいります。</p>
6	60代 男性	P53 リーディングプラン2 花いっぱいのもちづくりプラン	<p>みつばちボランティアの参加を通じて、ミツバチの飼育で得られる生きがい、癒し、人とのつながりや花粉媒介による地域の農業への貢献を強く感じている。</p> <p>花いっぱいのもちづくりプランへの追加提案として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 遊休農地を利用した蜜源植物の植栽 多年草で開花期が長く手入れ容易、病気に強いチェリーセージ、カラミンサ等 2 養蜂地の提供(キーステーションの設置) みつばちボランティアの飼育地の確保、より良い蜂の交配(近親交配の排除)になる。 3 老人ホームなどでのミツバチの飼育 軽い外国製の巣箱を使うなどの工夫で管理が軽減され、入居者の生きがいにつながる。 	<p>「花いっぱいのもちづくりプラン」のなかで、民有地の花いっぱい運動を促進する一環で遊休農地を活用した花畑づくりを掲げていますが、ミツバチに関する記載はありませんでした。「ミツバチが飛ぶもちづくり事業」と連携して相互連携のネットワーク作りが可能となることから、P53のリーディングプランにミツバチ関連を追加することとしました。</p> <p>養蜂地の提供及び老人ホームなどでのミツバチの飼育については、緑の基本計画のなかでは触れていませんが、花にミツバチが飛ぶもちづくり事業を展開していく中で、今後の課題として考えてまいります。</p>

No	コメント	項目	ご意見・ご提案の要旨	ご意見・ご提案に対する考え方
7	40代 男性	その他	<p>緑を「活用」する面が少ないと思う。「緑」を地場産業の場として活用することを提案します。「緑」の環境をもっと活用すれば魅力的な地産品ができます。私は養蜂ボランティアをしていますが、蜂蜜はすばらしい地域特産品になり得ます。しかし、土地を持っていない者には養蜂の壁は高い。空き地で年数回の草刈りをしている土地などをうまく活用できるよう、市が間に入って養蜂家に貸すような仕組みがあればと思います。</p>	<p>リーディングプランの「花いっぱいまちづくりプラン」のなかでは、「花いっぱいネットワークの推進」を明記しています。いろいろな個人、団体の相互連携のなかで、養蜂に対する理解が深まるよう支援していきたいと考えています。</p> <p>この基本計画では養蜂について触れていませんでしたが、相互連携のネットワーク作りが可能となることから、リーディングプラン2「花いっぱいまちづくりプラン」に「ミツバチが飛ぶまちづくり事業」の記載を追加しました。</p> <p>巣箱の置き場所の確保については、「花にミツバチが飛ぶまちづくり事業」を進める上での今後の検討課題といたします。</p>
8	60代 男性	全体	<p>「努めます」「図ります」「進めます」などの言葉が多く用されており、どこまで本気なのか真意が伝わません。年度ごとの具体的なタイムスケジュールを作成し、しっかりと管理のサイクル(PDCA)を回してください。</p>	<p>改訂作業は関係各課が参加した庁内検討委員会を設置し、内部横断的な連携を深めて進めました。本計画は総合的な施策を進める指針として策定されていますので、具体的なタイムスケジュールは定めていませんが、ご意見・ご提案を真摯に受け止め、市の総合振興計画に基づく実施計画のなかで事業を具体的に位置づけ、推進してまいります。</p>

No	コメント	項目	ご意見・ご提案の要旨	ご意見・ご提案に対する考え方
9		ミツバチについて	市は「環境指標生物・ミツバチと共生できる環境づくりを進める」との方針を出していますが、計画書に記載がありません。夏季などは花も少なく、公園など生活に身近な場所に、花がいつでも咲いているように、開花時期が重ならない樹木を組み合わせて植えてもらいたい。園芸植物もにぎやかでよいが、手間のかからない樹木を検討すべきと思います。	計画中にミツバチの記載はありませんでしたが、「ミツバチが飛ぶまちづくり事業」と連携して相互連携のネットワーク作りが可能となることから、P53のリーディングプラン2「花いっぱいのもちづくりプラン」にミツバチ関連を追加することとしました。花いっぱいのもちづくりでは、ミツバチとの共生を考慮して施策を進めます。また、公園等の植栽の折にはご意見を参考にしながら、その場所に適した樹木を選定してまいります。
10		鉄道の緑化	北坂戸駅から坂戸駅方面に向かう東側道路側の鉄道敷地内は、緑化以前の問題があります。ごみの散乱は市民には手が出ません。鉄道会社をもっと気配りしてほしい。また、除草剤をまいて枯れたままの草が長期間ある姿は心が寂しくなります。	ごみの散乱等が見受けられる場合は、必要に応じ市から東武鉄道に連絡をいたします。
11		その他	私も蜜源植物を増やす活動を行いたいと考えています。養蜂仲間と共同で、売り上げの一部を市の受け皿に拠出して、市と協働で蜜源植物の増加を図っていければ良いかと思います。	「花いっぱいのもちづくりプラン」は、蜜源植物に配慮する等「ミツバチが飛ぶまちづくり」と連携して事業を進めます。その他関連事業は多岐にわたるため、各事業所管課で事業を実施する際に、蜜源の増加に努めることができるよう、連携を深めてまいります。

No	コメント	項目	ご意見・ご提案の要旨	ご意見・ご提案に対する考え方
12	65歳 男	リーディングプランの見直し	本計画の範疇ではないように思えた部分なので妥当な措置と思います。	実態に合わせて見直しを行いました。
13		過去の10年間の評価が必要	P12～13の課題は初版と全く変わっていません。各章に前半期の成果とこれについての評価が必要です。それを踏まえて後期計画が見直されるべきと考えます。	前期10年間の成果の確認、評価等を行った結果、緑のまちづくりに向けた課題はそのまま継続することとし、実態に合わせて数値目標の見直しを行ったところです。
14		P17将来にわたり保全が担保される公園、緑地の面積の表	この改訂案に新たに加えられましたが、説明文が必要と思います。	表の下に次の文言を追加します。 ※保全が担保される公園緑地とは保全について市が関与できる緑地のこと
15		第4章の基本的な考え方	「人にやさしい公園づくりを市民とともに進めていきます」→大切な考え方です。ぜひともそうしてください。	基本的な考えのとおり進めてまいります。
16		P33②公園の緑化	総合振興計画では「老朽化」が遊具等を指しているように読めますが、植栽も強剪定の結果、樹形が崩れているものが目立ちます。これらの植替えやレイアウトの改善などのリニューアルも計画に含めてください。	改修などを含めた再整備などの際には、地元住民の意向も確認しながら、緑化や防犯、憩いの場としての利用などの総合的なバランスを考えながら進めてまいりますので、表現はこのままとします。
17		鉄道の緑化	P32の他に記載がないようです。P45の「市民・企業・行政など、みんなが力をあわせて緑を育てる」のなかに対応する項目を設けてはいかがでしょうか。	P46②「市民参加による緑化活動」のなかに河川や道路、学校、公園などの記載がありますが、鉄道の記載はありませんでした。鉄道を追加することとし、記載順はわかりやすいようにP32からP33の順に訂正することといたします。

No	コメント	項目	ご意見・ご提案の要旨	ご意見・ご提案に対する考え方
18		P9坂戸市の緑の現況の表	現況の農地の小計に山林・樹林地の数値が合計されています。正しくは1,355.8haです。	ご指摘ありがとうございます。訂正いたします。
19		P11緑地現況図	初版にある緑の現況図は緑地現況図に合わせたということでしょうか。	計画策定時の緑の現況図は、本計画で定義する緑地(施設緑地、地域制緑地)以外の農地・山林等を含んだ現況図です。平成6年の国土地理院細密数値情報(10mメッシュ)を基に平成17年までに大きく土地利用が変わった区域の修正を行った図から図上求積したものでした。今回の改訂にあたり、同様の手法が困難なことから、施設緑地、地域制緑地をまとめた緑地現況図だけの記載となりました。
20		P15緑と清流を創る(創造)	高麗川、越辺川に加えて飯盛川、谷治川などの小河川も含めるように、将来的な目標としてでも掲げてください。これらの源は湧水ですので、三島市の源兵衛川のように水辺を再生できる可能性があります。	飯盛川、谷治川は水と緑の緑地軸(P19)、水辺の散歩道(P20,29)、河川・水路の緑化(P32)等に記載があり、ご指摘の「緑と清流を創る(創造)」のなかに含まれるものですので、P15「緑と清流を創る(創造)」文中の「高麗川や越辺川」の後に「など」を付け加え、小河川も含めた表現といたします。
21		P19緑の将来像	緑の将来像の説明のなかで「市民の手によるまちなみ緑化を進め」は、「まちなみ緑化」がより具象化されます。	「まちなみ緑化」の表現は市街地を連想される方が多いと思われます。郊外の集落地を含めたイメージで「まちなみ緑化」とさせていただきます。また、同ページの「花いっぱいのもちエリア」のなかで、まちなみの緑化と表記されていますので「まちなみの緑化」に表現を統一いたします。
22		P20水辺の散歩道 緑の散歩道	水と緑の拠点をどのように有機的に結び付けるかの考えが必要です。P42のワンドなども含めて、「散歩道」と「景観」、「風の通り道」など、緑空間の機能全体の整備を目指してください。	ご意見のとおりで、個々の施策を総合的に関連づけて「緑と花と清流のまち・さかど」が実現できるよう努力してまいります。
23		P26,30,35,40,44の計画道路表記	凡例の表示(……)と図中(-----)が異なる	ご指摘のとおりですので、表記を統一させていただきます。
24		P25水辺と緑の拠点	7か所の他に飯盛川(清水町公園下)を加えてください。	「水辺と緑の拠点」については、環境学習や動植物の生息環境を含めた緑の保全を念頭に、高麗川、越辺川、葛川の7か所を定めました。他の河川については、水辺の散歩道の整備としており、そのなかで対応してまいりたいと考えています。

NO	コメント	項 目	ご意見・ご提案の要旨	ご意見・ご提案に対する考え方
25		P28市民緑地(市民の森)の整備	市民の森の条例化を謳ってください。	市民の森の制度は都市緑地法で定められており、市の条例がなくても実施に差し障りはありません。条例化については、市民の森の整備を進める中で、必要に応じ検討してまいります。
26		P34①住宅地の緑化	接道境界部のブロック等を生け垣に変える助成制度活用の検討を入れてください。	48ページの緑と花と清流を創る仕組みづくりで、生け垣設置奨励金制度の活用を図るとしています。今後、利用拡大のPRに努めてまいります。
27		P27,28,42,46,51吹き出し	初版のように用語集を添付して参照するように改めてはいかがでしょうか。	吹き出しについては、用語の難易度、レイアウトの関係等で本文に入れているものです。その他の用語については、当初策定時と同様に巻末に用語集を掲載いたします。
28		P48基金事業の概要の表	枠内際下段が一文字下がっている。	ご指摘のとおりですので、訂正いたします。
29		区画整理地内の道路の街路樹	道路の供用開始と同時に植樹する等合理的に進めてください。緑化推進の観点では不合理です。	区画整理事業は、地権者からその権利に応じて少しずつ土地を提供してもらい(減歩)、この土地を道路、公園などの公共用地が増える分に充てるほか、その一部(保留地)を売却し事業資金にしています。事業費を効率的に使用し事業の進捗を図るため、道路や下水道の築造、建物移転などを優先的に進めざるを得ないのが現状です。そのため、植樹についてはまだ検討していない段階です。地権者の理解を得ながら事業を進めており、早期の事業完了を目指していますのでご理解をお願いします。

NO	コメント	項目	ご意見・ご提案の要旨	ご意見・ご提案に対する考え方
30		区画整理地内の緑地	区画整理では緑地は公園3%だけに縮小される。「緑保全基金」を活用し、少なくとも+2%の自然緑地を市が買い入れるなどの「緑の基本施策」を計画に入れるべきです。	土地区画整理法施行規則第9条では公園の面積は施行地区の面積の3%以上と定められています。事業地内地権者の減歩との兼ね合いもありこの基準で事業計画を定めています。市街化区域内の緑地の保全は、区画整理以外の様々な手法を研究しなければなりません、財政負担も考慮しなければならず、今回の改訂では触れていません。今後も、市民の方々のご意見をいただき、より良い方法を研究してまいります。
31		実施に関するフォロー体制	市の関係機関とNPO、ボランティア団体代表及び公募した市民で構成する「実施状況評価委員会」を設置し、毎年の実施状況を評価し提言するPDCAサイクルのための体制が必要です。	関係各課が参加した庁内検討委員会を設置し、連携を深めて改訂作業を行いました。引き続きこうした横断的な組織体制のもとで施策を推進しますが、必要に応じてNPO、ボランティア団体等のご意見を求めて進行管理を行いたいと考えています。
32		その他	経済活動と環境保護活動の相反を是正することが大切です。これからのもっとも大きな財産は緑、すなわち日々の生活環境です。その良さをアピールし、若い世代が多く集まるまちづくりをし、経済活動を活発にしたい。	緑の基本計画が緑化だけの計画に止まらず、市の活性化、魅力のアップにつながるよう、関係部署と連携、調整を図り推進していきたいと考えます。
33		P41流域自治体との広域な連携	初版より穏当な表現に改められたと思う。「高麗川サミット」はいささか前のめりに感じたが、流域自治体との広域的な連携はぜひ進めていただきたい。	高麗川まるごと再生プロジェクトでは、日高市との交流が深まりました。今後も機会あるたびに上下流域の自治体と連携を深めてまいります。
34	69歳 女性	その他	坂戸オープンガーデンは衰退するのみです。個人任せだからでしょうか。市民が集う緑と花広場ができるよう願う者です。	坂戸オープンガーデンが始まって12年が経過しましたが、現在も新規に登録される方もいます。今後も創意工夫して花いっぱいのもちづくりを進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

参考 市外居住者

No	コメント	項目	ご意見・ご提案の要旨	ご意見・ご提案に対する考え方
1	70代 男性	改訂案の概要について	<p>城山の森の位置づけが行政サイドの意気込みをうかがわせ大いに期待します。 高麗川ふるさと遊歩道を越辺川沿いに延伸し整備する構想は緑と花と清流のまちにふさわしい。</p>	<p>市民・企業・行政など、みんなが力を合わせ、緑と花と清流に包まれた美しいふるさとづくりをめざすという基本理念のもと、施策を推進したいと考えています。</p>
2		その他提案	<p>我々(鳩山野鳥の会)が坂戸市で最も豊かな環境を有していると考えている小沼地区について言及がないのが残念でなりません。この地域で大規模な開発計画が進んでいると聞いている。小沼地区の環境保全について真剣に検討していただきたい。天神橋下流から道場橋までの間で河川、河畔林等の樹林地、草地、土手、田んぼ等の耕作地を含んだ一帯の保全について具体的な記述、指定がありません。緑の基本計画で具体的に指摘していただきたい。平成17年8月の越辺川周辺の環境保全に向けた連絡調整会議(大宮国道事務所主催)には、多様な生き物の保全は急務との認識で坂戸市職員も数名参加しており、10年前から行政市民の間で注目され保全の必要性が語られていたところ。緑の基本計画で姿勢を明確に打ち出していただきたい。</p>	<p>本計画では小沼周辺について具体的な記述はしていませんが、農業の振興と併せて優良農地の保全に努める(P39)としています。「緑の将来像」では城山周辺の樹林地や高麗川などの河川エリアを軸として、水と緑のネットワークの形成をめざすこととし、河川や水辺の緑地軸では保全と活用を図ることとしており、小沼の河畔林もこの中に含まれています。また、圏央道坂戸IC周辺については、協議会が設立され、開発が検討されている段階ですが、市としても、周辺の自然環境との共存に配慮がなされるよう求めてまいります。</p>